



# MUSASHINO *for* TOMORROW

Vol.143  
Jun 2023

巻頭

ラフマニノフ生誕150年に寄せて——

真嶋雄大 | 音楽評論家・作曲家・プロデューサー

卒業生インタビュー

夢は世界の舞台、  
あきらめない心と挑戦の日々

土屋優子 | ソプラノ

# ごあいさつ

武蔵野音楽大学学長・同附属高等学校校長

福井 直昭



雨に濡れた若葉が鮮やかに目に映える季節を迎え、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。学内が未来への希望に満ちた新生で賑わう中、2023年度の幕開けから早二ヶ月が過ぎました。多くの困難に直面するこの時代に、音楽家の道を志し、本学に入学を果たした新生の皆様への不断の努力に対し敬意を表します。並びに、支えてこられたご家族の皆様、平時以上に大学運営に対し多大なご支援・ご協力をくださったすべての方に、心より感謝申し上げます。

さて、学内に目を向けますと、今年度は全レッスン・全授業を対面式に戻したため、キャンパス全体が以前のような活気に満ち溢れています。また、催行を見合わせていた管弦楽団・ウィンドアンサンブルの演奏旅行等も再開いたします。様々な人に出会い、刺激を受け、議論して、自立した学生として成長できることが対面での学修のメリットです。学生たちは、より切磋琢磨し、さらなる研鑽を積んでくれることと思いますが、我々教職員も、新時代における音楽大学の新たな教育の在り方を、模索・構築し続けて参ります。

2024年初頭には、キャンパスへ徒歩3分以下というアクセス抜群の場所に、新女子学生寮が完成いたします。設計施工は、マンション建設で業界トップの実績を誇る(株)長谷工コーポレーションが担当します。音楽から生み出される様々なシーンを空間に落とし込むことで音楽の美しさを具現化し「音楽と空間を行き来する」——これが本寮の設計コンセプトです。諸設備を完備した個室方式によりプライベート空間をしっかりと確保しながらも、一人暮らしでは得られない広い共用スペースや練習室を有しており、さらにデザインは学生寮に対し一般的に持つイメージを覆す高級感とスタイリッシュさとなります。詳細は、本誌10頁をご参照ください。

さて、一昨年リニューアルされた本学「楽器ミュージアム」は、所有する貴重な楽器の数々を新しい展示空間で一般の皆様にも公開し、我が国の音楽文化の発展に寄与しているという社会的評価を既にいただいておりますが、2024年秋には、本学園が歩んできた歴史を確実に次世代に継承するための「武蔵野音楽学園記念室(仮称)」が、オープンいたします。在学生・在校生には、本学の建学の精神、教育の方針を一層理解してもらおう場、卒業生の方々には、学園の歴史を想い、それぞれの現在・未来を展望していただける場となるような、様々な歴史的資料品の展示を計画しております。学園の一体的発展の一助となることを願っておりますので、開室を楽しみにいただければ幸いです。

本年、創立50周年を迎えた附属高等学校に関しても、この期に展開する様々な周年記念事業を通じて、各界で活躍する卒業生の強い思いと応援に支えられつつ発展してきた歴史を、次の時代に向けて架橋していきます。これから様々なアナウンスをして参りますので、どうぞご期待いただきたいと思います。

ポスト・コロナの社会となる中、ひとりひとりの健康と社会活動の両立が、益々大切になっています。読者の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。我々も、建学の精神を堅持し教育の方針に従って、学生諸君が学修目的に従い真摯に取り組むことができるよう、教育環境の充実に更なる努力を傾注してまいりますので、新年度も一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2023年6月



Sergei  
Rachmaninoff

セルゲイ・ラフマニノフ(1910年代)

## ラフマニノフ生誕150年に寄せて——

真嶋雄大 | 音楽評論家・作曲家・プロデューサー

今年2023年は、ラフマニノフ生誕150年のメモリアル・イヤーである。そのため昨今、世界各地で関連コンサートやイベントが開催されているが、大音楽家を形成するに至る重要なファクター、即ち国や民族としてのメンタリティー、家庭環境、教育等々の見地から、ラフマニノフという作曲家、ピアニストについてあらためて検証してみたい。

セルゲイ・ヴァシリエヴィチ・ラフマニノフは西洋暦1873年4月1日（ロシアのユリウス暦では3月20日）に生まれた。出生地はロシア西方ノヴゴロド州セミョーノヴァとされているが、現地の教会に出生届が出されただけで、本人は生れも育ちも同州オ

真嶋雄大 Yudai Majima

音楽評論家、作曲家、プロデューサー。5歳からピアノを、中学から作曲を学ぶ。1973年に〈ソプラノと和洋合奏のための変容〉を発表、自ら指揮して注目された。朝日新聞、「音楽の友」等媒体、演奏会の曲目解説、CD等のライナーノート、音楽劇の台本等旺盛な執筆活動と同時にNHK-FM等への出演、コンクールの審査、レクチャー・コンサートやプロデュースを展開、いずれも大好評を博し、その模様が2017年「日経ビジュアル音楽堂」で紹介された。著書に「ピアニストの系譜」等。日本演奏連盟専門委員、YCC文化ホール・アーティストック・アドバイザー、「真嶋雄大の面白クラシック講座」主宰。



© 堀田力丸

セルゲイ・ラフマニノフ(1921年)



ネックだと考えていたという。

ラフマニノフの高祖父は1741年、女帝エリザヴェータの近衛守備隊将校となり、偉勲により領地を与えられて富を得た。曾祖父アレクサンドルは優れたヴァイオリニストであり、またその妻マリーヤは音楽一家の出身で歌唱を好み、その息子アルカディはジョン・

フィールドに学んだアマチュア・ピアニストである。後の家系からはマイナーな作曲家バフメーティエフを輩出するなど、ラフマニノフが音楽家として成長する素地は十二分にあった。父もまた音楽への強い愛着があったものの、家系の伝統によって軍に入隊、後にワルシャワの近衛師団連隊で将校として過ごし、やがてブータコフ将軍の息女リュボーフィと結婚、息子3人と娘3人に恵まれ、その第3子がセルゲイである。

父は領地の管理をしていたが、経営能力はなく、また持てる富を自由にできたことから放蕩の限りを尽くし、領地を次々に売却、結局没落の憂き目に遭う。一方で父は毎日数時間もピアノに向かい、また母もピアニストであり、セルゲイは母からピアノの手解きを受けることができた。



そもそもロシアに大国家が出現したのは9世紀後半、現在のウクライナの首都周辺に建国されたキエフ（キーウ）大公国である。10世紀末になると、キエフ（キーウ）公ウラジーミル大公が東ロー

マ帝国からキリスト教を受容、けれどもカトリックやプロテスタントなどの西方教会と対置するギリシャ正教を国教と定めたため、西欧とは宗教的にも隔絶されることとなった。ただロシア正教会は、音楽にギリシャ的な正統性を強いることはなかったので、民族色豊かで自由な教会音楽が発展していったことは大変重要である。

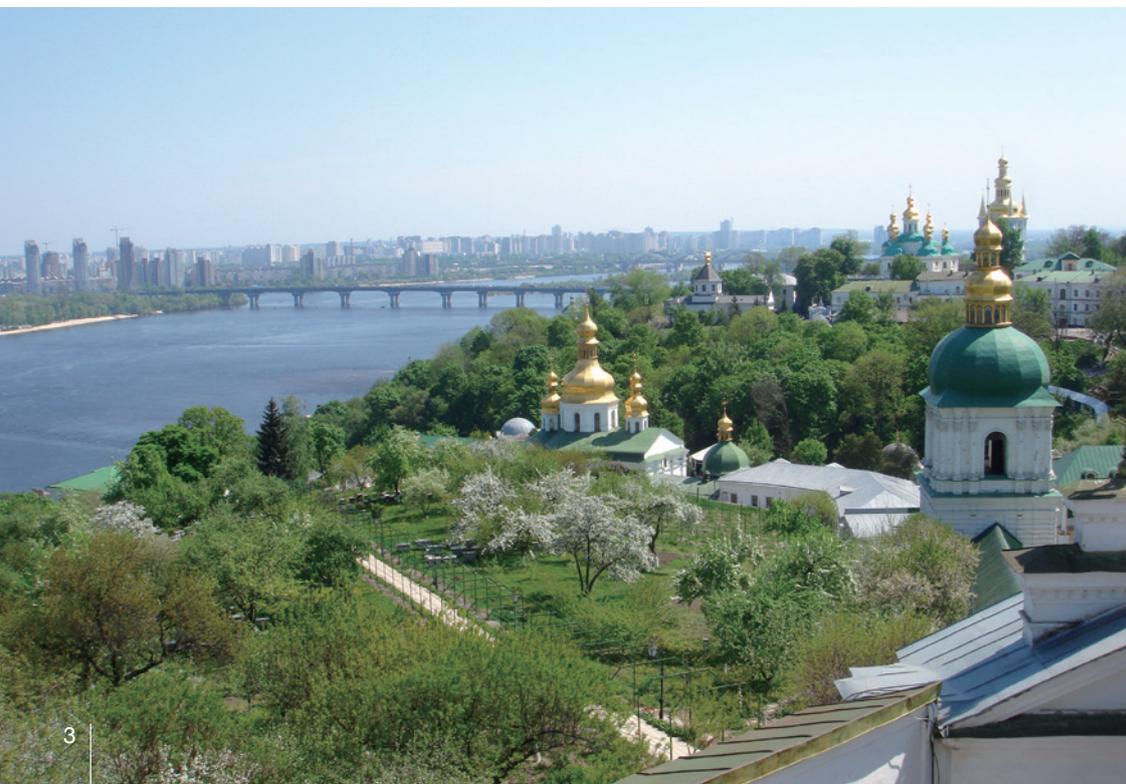
その後それまで独自の文化を形成していたロシアが、西欧からの音楽文化を受け入れたのは18世紀初頭、ピョートル大帝の西欧化政策の一環であった。やがて女帝エカテリーナ二世の招聘でガルツピヤやバイジエロ、サルティヤチマローザなど当代一流のオペラ作曲家たちがロシアを訪れて宮廷楽長を務め、国家の発展に伴った文化面での興隆を支えた。ほどなくロシア人作曲家も現れ始め、なかでもボルトニャンスキーは、ロシア聖歌におけるペテルブルク楽派としてロシア音楽の近代化に尽力、グリンカはオペラ「イヴァン・スサーニン（ニコライ1世の命で《皇帝に捧げし命》と改名）」などを作曲、ロシア国民楽派の始祖としてロシア音楽界を牽引したのである。

ラフマニノフは20世紀を代表するピアニストでもある。であればロシアにおけるピアノ音楽黎明期の受容史にも触れなくてはならない。ロシアで鍵盤楽器が使われ始めたのは19世紀に入ってからである。その後徐々に演奏会が開かれるようになり、記録によると1834年にはモスクワ音楽集会という名のコンサートに、200人ほどの聴衆が集まったとされている。それより以前、クレメンティはその弟子であるフィールドとクレンゲルを連れてロシアを訪問、1810年まで各地を演奏旅行して大成功を収めた。また指導者としてもロシア音楽界に深く関わったため、ロシアの一大ピアノズムが形成されていく礎ともなったのである。



母に指導されたラフマニノフは、続いてアンナ・オルナーツカヤに学ぶが、一家がサンクトペテルブルグに移住したため、一旦は彼の地の音楽院に進むも妹の病死、両親の別離などから情緒不安定に陥って落第、従兄弟のア

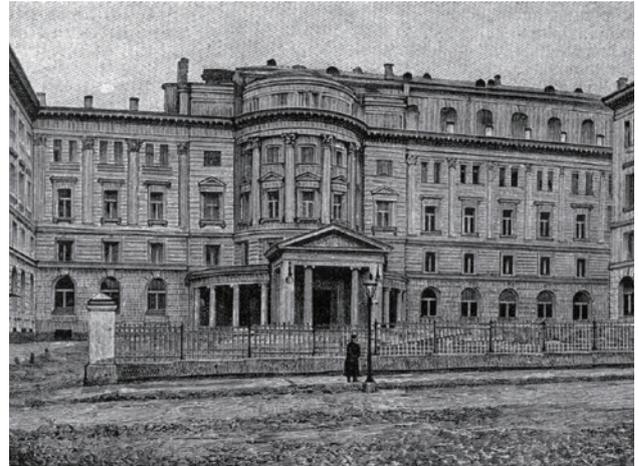
レクサンドル・ジローティの薦めでニコライ・ズヴェーレフに師事するため、モスクワ音楽院に転校した。ズヴェーレフをはじめとして当時のロシアでは徒弟制度のような師弟関係が多く、またメソッドは独特である。その最大の特質が美しい音を創り出すこと。美しい音とは即ち倍音を多層的に含んだ響きである。ピアニストを志す子どもたちは、教師が聴かせる美音を徹底して身体に叩き込まれ、その音を出すべく切磋琢磨するのだ。さらにフランツ・リストが伝えた重量奏法による格調高いダイナミズムと瑞々しい感性、そして音





ヴァクトル・メルザーノフ・モスクワ音楽院教授(2010年11月にモスクワ音楽院で撮影) | [www.classicalmusic.com/author/valter-melzer/](https://www.classicalmusic.com/author/valter-melzer/) | 著作物 CC BY-NC-SA 3.0 | <https://commons.wikimedia.org/wiki/index.php?curid=1648921> | 投稿者自身による

モスクワ音楽院(1901年)



楽の持つ抒情性を豊潤に歌い上げて初めて、正当的なロシアの血脈に身を置くことになる。それを楽曲に鮮やかに投影したのもラフマニノフであった。

厳格なズヴェーレフの家に下宿しながら通学したラフマニノフは、ルビンシテイン兄弟やサフォノフ、チャイコフスキーらを知り、音楽院では対位法をタネーエフに、作曲をアレンスキーに学んだ。しかし作曲よりもピアノの技術向上にこだわるズヴェーレフと衝突して訣別、いよいよ作曲活動をスタートさせたのである。音楽院の卒業試験のために作曲したのは歌劇「アレフ」。プーシキンの詩「ジブシー」に基づくもので、この作品によって音楽院から大金賞を授与された。

ピアノ作品としての最初の成功は、「前奏曲嬰ハ短調」であった。この曲によってラフマニノフは一躍人気作曲家となり、彼のコンサートにおけるアンコールの定番ともなった。やがてラフマニノフはピアニスト、作曲家、指揮者という3つの柱で活動するようになる。ピアニストとしてコンサートに臨むとき、ラフマニノフは常に自らを律していた。技術の正確さ、テンポや全体の造形は揺ぎなく、洗練されたレガートや作曲家らしく複雑なテクスチャーを明晰に弾きわける能力に長けていた。

身長190cmと恵まれた体躯、運動能力に優れた巨大な手指、ヴィルトゥオーズ性と深い哀愁に満ちた音楽性、いずれも真の大ピアニストとしての資質を備えていた。またラフマニノフの作品は、殆どラフマニノフ自身が演奏するために書かれたものであり、



ラフマニノフの手

©senar.ru

当然ながら自己のプロパガンダ的要素も含まれていた。であるからその演奏は技巧的に著しく困難で、著名なピアニストをして「ピアノ協奏曲第3番が弾けなくなったら演奏家を辞める」とまで言わしめる程であり、一方でラフマニノフ作品で世に出ようとする若い才能は後を絶たない。

ピアニストとしてのレパートリーは自作が殆どであったが、古典派から19世紀作品までの多くを演奏した。どの作品においてもラフマニノフは構成を綿密に計算し、それぞれのクライマックスに向かって盛り上がり、収斂していくというアプローチを崩すことはなかった。感情移入の余りテンポは著しく伸縮を繰り返し、聊か過剰とも言える表現になっていることもあったが、画一化された演奏が氾濫している今日、賛否両論はあるにしろ、ラフマニノフの演奏は実に新鮮で瑞々しい詩情を湛えていた。

1917年10月、ロシアで十月革命が勃発したのを嫌い、ラフマニノフはヨーロッパへと出国、その後1918年秋、アメリカに拠点を求めた。そして二度とロシアには戻らなかったのである。「ピアノ協奏曲第3番」を携えてアメリカに渡った折も、興行主からの熱心な依頼の他、新車を購入したいという微笑ましいエピソードも残されている。

ロシア、アメリカ時代を通じ、ラフマニノフは3曲の交響曲、数曲の管弦楽曲、5曲のピアノと管弦楽のための協奏作品、数多くの室内楽曲、ピアノ独奏曲、そして声楽曲などを遺したが、いずれもが哀愁に満ちた旋律とロシア的な仄暗い抒情を基調とし、その上で西欧的なロマン派的情緒を融合させた独特の作風を示した。広大なロシア、就中スラヴの荒涼とした大地や厳しい自然が幼少からのラフマニノフの内省に影響を与えたことは自明の理であり、さらに伝承されていたスラヴ神話や神々、また語り継がれてきた精霊たちの逸話も同様にラフマニノフの独創性を育んだことは想像に難くない。加えて管弦楽作品では絢爛たるオーケストレーションを駆使し、千変万化する色彩の艶やかさ、ドラマティックで劇的とも言える高揚感まさにダイナミックであり、他とは一線を画す唯一無二の音楽的感興を湧き起らせているのである。





リストは高弟ジローティを通じラフマニノフに重量奏法を伝授するなど、ロシア音楽全般に深く関わった。フランツ・リスト(1858年)

かつて筆者は、モスクワ音楽院名誉教授で、ロシア・ラフマニノフ協会会長を務めていたヴィクトール・メルジャーノフに、ロシアン・ピアノリズムについておよそ4時間にわたって伺ったことがある。それをすべてご紹介することは難しいが、要約すると、ロシアン・ピアノリズムの基礎となったのはラフマニノフであり、それはフランツ・リストまで遡ることができる。そのピアノリズムは指だけではなく、腕全体の重みをかけて弾く重量奏法である。それをラフマニノフに伝授したのはリストの高弟であったジローティだった。またジローティはズヴェーレフにラフマニノフを紹介したが、そのレッスンは朝6時から始まるという過酷なもの。けれども当時各地で建設され始めていた大ホールの最後部まで音を届かせるにはこの重量奏法こそ不可欠であり、またリストはロシアで様々な作曲家たち、バラキレフ、ポロディン、チャイコフスキーなどから影響を受け、編曲も施し、ロシア音楽全般にわたって深く関わった。即ちリストのロシア・ツアーをきっかけに、比類ないロシア音楽の新しい歴史が始まったというのである。



本学主催「ラフマニノフ・プロジェクト」にて有終の美を飾った本学管弦楽団・合唱団による演奏会(2002年12月10日サントリーホール大ホール)

さて、ラフマニノフに関して、忘れる訳にはいかないイベントがあった。2002年12月に開催された、武蔵野音楽大学主催による「ラフマニノフ・プロジェクト」である。監修、指揮はウラジーミル・アシュケナージ。妹のエレーナが客員教授として招聘されていたり、アシュケナージ自身が同大で公開レッスンをした繋がりだが、サントリーホールでのアシュケナージ指揮チェコ・フィルを皮切りに、武蔵野音大ベートーヴェンホールなど数日に



監修、指揮ウラジーミル・アシュケナージによるサントリーホールでのリハーサル

わたり、「ピアノソロ・デュオによる室内楽」や「ピアノトリオ・チェロ・声楽による室内楽」、またアシュケナージによるピアノ公開レッスン等が行われ、最終日はサントリーホールでの武蔵野音大管弦楽団、合唱団による「バガニーニの主題による狂詩曲」や合唱組曲「鐘」などで有終の美を飾った。この日も指揮台に立ったアシュケナージは終演後、「20世紀では、ラフマニノフは様々誤解や軽視をされてきた。多くの素晴らしい業績があるにも関わらず、あまり評価されず、知られている曲は僅か。J.S. バッハやベートーヴェンに勝るとも劣らないラフマニノフの音楽を、このプロジェクトを通じて改めて認識してもらえたら…」と吐露したが、あれから20年。聴くものの胸を打ち、心躍らせるラフマニ

ノフの音楽は、アシュケナージの憂慮を超え、世界中の聴衆に深く訴求していると言えるだろう。さらに時代とともにあまねく浸透し、未来に揺るぎないラフマニノフ像を構築するに違いない。



卒業生  
インタビュー

東京二期会オペラ劇場 プッチーニ『トゥーランドット』公演 (2023年2月 東京文化会館) 中央上部が土屋さん  
写真提供:公益財団法人東京二期会 (撮影:寺司正彦)

## 夢は世界の舞台、あきらめない心と挑戦の日々

土屋優子 | ソプラノ

本年2月、東京二期会主催のもとプッチーニの傑作オペラ『トゥーランドット』が東京文化会館で上演されました。二期会創立70周年記念公演としてジュネーヴ大劇場との共同制作、併せて国際的に評価の高いアート集団チームラボによる最新鋭の舞台装置でも話題をさらった本公演に、タイトルロールとして抜擢されたのが本学卒業生で現在イタリアに在住している土屋優子さんです。二日前、大成功の内に公演を終えたばかりの土屋さんに、本番でのことを始め、オペラ歌手として歩まれてきた道のり、音楽への熱い思いなどを伺いました。

(2023年2月28日インタビュー)

### 合唱から始まったオペラ人生

——最初に土屋さんの音楽歴、声楽を志した理由や、本学との関係などをお聞かせください。

小学生のときに合唱部に入部したことがきっかけです。高1の時に個人レッスンに通い始め音大を志すようになり、当時習っ

#### 土屋優子 Yuko Tsuchiya

北海道出身。武蔵野音楽大学声楽学科卒業。同大学院修士課程修了。二期会オペラ研究所、サントリールホールオペラアカデミー、イタリア国立パルマ音楽院及びプッチーニアカデミー修了。平成28年度宗次エンジェル基金/公益社団法人日本演奏連盟新進演奏家国内奨学金制度奨学生。第54回日伊声楽コンクール第1位、第9回マリア・マリブラン国際声楽コンクール(イタリア)第1位等、国内外で多数受賞。『ジュリオ・チェザレ』コルネリア、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツツァ、『フィデリオ』『トゥーランドット』表題役にて出演の他、『第九』、ヴェルディ『レクイエム』等のソロでも活躍し、高い評価を得る。二期会会員。



ていた先生から豊嶋祐壹先生をご紹介いただき、武蔵野に進学を決めました。オペラに興味を持つようになったのは大学に入ってからですね。1年の時に、武蔵野のオペラ公演を観て、こんな世界があるんだと感動しました。その後大学3年と院1年の時にオペラコースに在籍し、初めてオペラを学びました。そこでは演出、

演技指導、ピアノ伴奏の先生方にオペラの厳しさと楽しさを教えていただきました。

—— 大学院を修了後はどのように研鑽を積まれたのでしょうか？

将来、日本で活動することを考えた時、基盤を築いてから海外に行く方が良いと思い、大学院修了後は二期会オペラ研修所マスタークラスで1年間、サントリーホール・オペラアカデミーのプリマヴェーラ・コースで2年間学びました。1年間の重複期間は大変でしたが、本当に貴重な経験でした。同時にその間、小学校の先生やアルバイトなど社会人として3年間働いてから、留学をしました。

—— 現在はイタリアに拠点を置かれているとお伺いしましたが。

偶然なのですが、新国立劇場のオペラ公演に主役で出演されていたソプラノ歌手のマリア・ホセ・シーリさんと来日中に知りあうことができ、そのご縁もあって留学1年目はヴェローナを拠点にレッスンを受講することができました。アリーナ・ディ・ヴェローナやミラノスカラ座にも出演されている著名なオペラ歌手から幸運にもレッスンを受けられたこと、滞在中にスカラ座のVIP席に招待していただいたことなど、私の人生でこんな日がやってくるとは思ってもいなかったので、思い切って海外に出て良かったと心から思いました。2年目以降は、パルマの音楽院の2年コースで学びましたが、コロナ禍のため3年ほど在籍して修了しました。その後、コンクールやオーディションを受ける日々が続ぎ、昨年、プッチーニ音楽祭が主催する「若い歌手のためのアカデミー」に参加して、オーディションでトゥーランドット役のカバーに抜擢され、本公演にも出演することとなり、好評をいただくことができました。

—— コンクールもたくさん挑戦されたとか。

在学中は、武蔵野の学生なら皆さん憧れる練馬区新人演奏会オーディションに3回挑戦しましたが、一度も入賞は叶いませんでした。実は日伊コンコルソも3回ほど受けていまして、留学1年目に再挑戦してみたら、なんと1位に入賞することができました。これは嬉しかったですね。イタリアでの経験が活かされたと思っています。

でも私にとって、コンクールでの順位はあまり問題ではありません。あくまで通過点で、その過程が自分の糧になると思っています。これをバネに次頑張ろうと自分を奮い立たせています。ただ、コンクールの入賞歴は、演奏家にとって名刺代わりとも言え、自分がどれぐらいのレベルを持っているかを紹介する重要なツールであることも事実です。特にヨーロッパでは、エージェントの方がコンクールの審査員として来ていることも多く、受賞は仕事に繋がりやすいため、演奏家を志す多くの人々が、日々挑戦しています。

イタリア・プッチーニ音楽祭にて「トゥーランドット役」でデビュー



## 憧れのオペラ

### 「トゥーランドット」に出演して

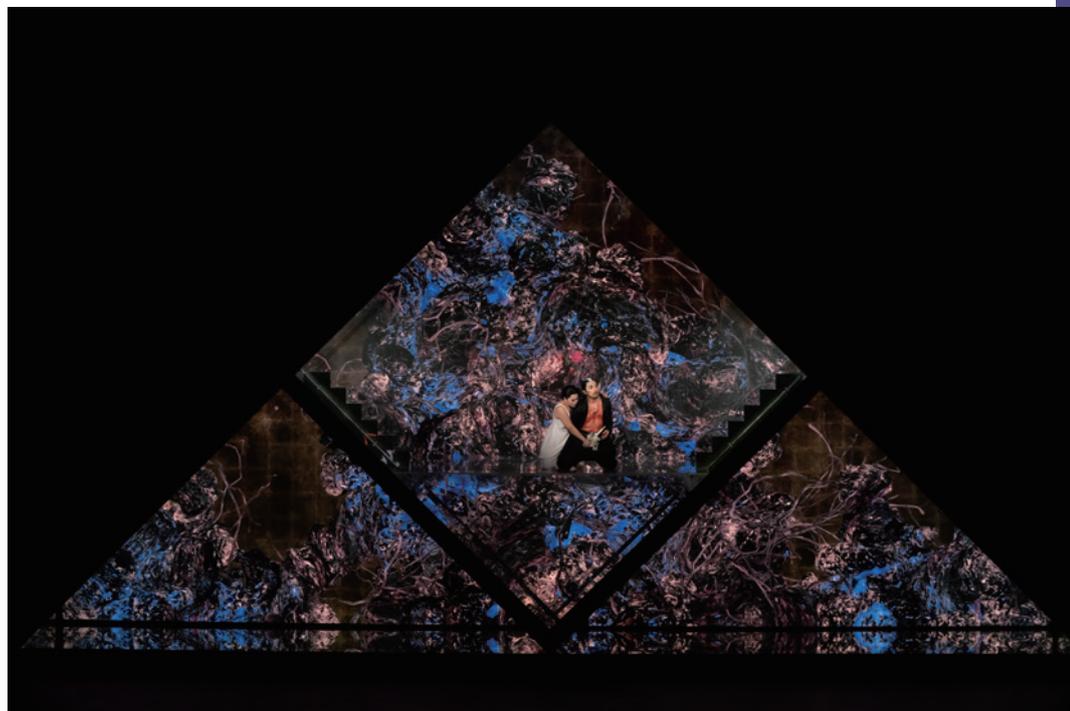
—— 今回の東京二期会の出演についてお尋ねします。どのような経緯でオーディションを受けられたのですか？

東京二期会では、本公演のキャストは全てオーディションで決定しており、私もこれまで『ローエングリン』のエルザのカバーや『フィデリオ』のレオノーレなどに選ばれたことがありました。そんな中、一時帰国した際に、タイミング良く『トゥーランドット』のオーディションがあると知り、いつか演じたかった憧れの役だったため、受けてみようと思ったんです。

—— オーディション合格を聞いたときどんな思いでしたか？

合格通知を受け取ったのはイタリアに帰る途中でしたが、真っ先に両親に報告しました。並行して北欧のアカデミーも受けていたのですが、そちらは不合格、東京二期会は合格のメールが同時に入っていて、これは「トゥーランドットを頑張れ」ということなのだと思いますね。

空間演出を手掛けた、国際的アート集団 チームラボによる幻想的な舞台。写真提供:公益財団法人東京二期会(撮影:寺司正彦)



このオペラは世界的に人気でどこでも満席になりますが、今回の公演はそれに加え、二期会創立70周年記念公演として、ジュネーヴ大劇場との共同制作でも話題の公演でした。皆さんには、「こんな素晴らしいオペラに抜擢されて、順調にキャリアを積み重ねていますね」などと言われたりしますが、私としてはたくさん受けた中でついに掴んだものだったので、決して順調ではなかったです。

—— 出演が決まってから本番まではどうでしたか？

本公演の約1年前にオーディションがあって、大体2月の公演だと前年の11～12月ぐらいに始まる音楽稽古までに、自身で準備をするという感じです。今回の役は、昨年の8月にすでに、イタリアのプッチーニフェスティバルでも経験していたので、じっくり練り直すことができました。ただ同時に、レパートリーを増やすことの大切さを改めて考えさせられました。

また今回のプロダクションは、かなり斬新な舞台装置を用いた新演出だったので、戸惑いもあり大変でしたが、演出家が丁寧にキャラクター設定などを説明してくださるなど、こちらも納得いくまで話し合いながら創りあげた舞台は貴重な経験となりました。

—— 成功裡に終わったの感想は？

私も大好きな、世界的にも話題のチームラボとのコラボレーションの素晴らしい舞台で主役ができるなんて本当に幸せな時間でした。初日は気分が入りすぎて少し緊張してしまいましたが、2日目になると、自分も周りの状況も冷静に見ることができ、他のキャストとの一体感が感じられて良い舞台になったと思っています。自分の声に合っている役ですし、周りからの評判も良かったので、きっとそう遠くないうちに、またどこかで出演できるのではないかと心のどこかで思っています。

—— 土屋さんが常に心がけていることなどはありますか？

歌い手は10年、15年先のことがわからない職業なので、目の前のことを丁寧に全力で取り組むことを心がけています。そして“声”を一番考えて、休む日も積極的に作るようにしています。あとは、「常に周りに感謝を忘れない」というのが私のモットーなのですが、演じる上で、自身の芸の肥やしとなるさまざまな感情を与えてくれる人々、自分の人生に関わる全ての方に感謝しています。

## 行動力と挑戦が人生を切り開く

—— 武蔵野時代のことをお聞かせください。特に印象に残っていることなどありますか？

本当に楽しくて充実していました。人間キャンパス内の寮に入りましたが、友達にも恵まれ、練習室や図書館がいつでも利用できることなど、音楽に集中できる環境でのびのび勉強していました。2年の時に管弦楽団の定期演奏会で、ヴェルディの『レクイエム』に出演できたことは良い思い出です。他にも、音楽史の授業は小学校で教えていた時に役に立ちましたし、課外バレエの授業は現在舞台に立つようになって所作に活かすことができている。専攻以外の学科目を履修したり、学友会活動にも参加したりと、大学生活を満喫していましたね。大学時代の友人、先輩、後輩とは今でも交流があります。

—— 武蔵野の後輩たちへメッセージをお願いします。

豊嶋先生が、私がやりたいことは何でも挑戦させてくださったことが今の私に繋がっていると思っています。皆さんには、本当



野外の演奏会にて アカデミーの仲間たちと一緒に

にやりたいことを全部やってもらいたいし、そのときに駄目だったという経験も必ず次に活きるもので、何でも恐れずに挑戦してもらいたいです。留学をしてから、「常に履歴書を持ち歩きなさい」と習いました。私は世界の劇場を知っているけど、世界の劇場は、例えば私が『トゥーランドット』をどれだけ歌えるか知りません。こちらから発信するしかないですね。とにかく行動力と積極性は大事です。

—— 最後に、土屋さんの今後の活動と抱負をお聞かせください。

今後はドイツでも勉強を続けたいと思っています。以前『フィデリオ』に出演した時に、やはり語学は大事だということを感じました。そして将来的には1つの国にこだわることなく、さまざまな事に挑戦したいです。広い世界で、私の声を必要とってくれる劇場が必ずあると思うので、あきらめずに努力を続けていきたいです。今回のオペラ出演を機に新しい挑戦の旅が始まります。常に「初心忘るべからず」の心で臨みたいと思っています。



コンクール、オーディションで訪れる地域の世界遺産を観光

## ヴィオラ・ダモーレ

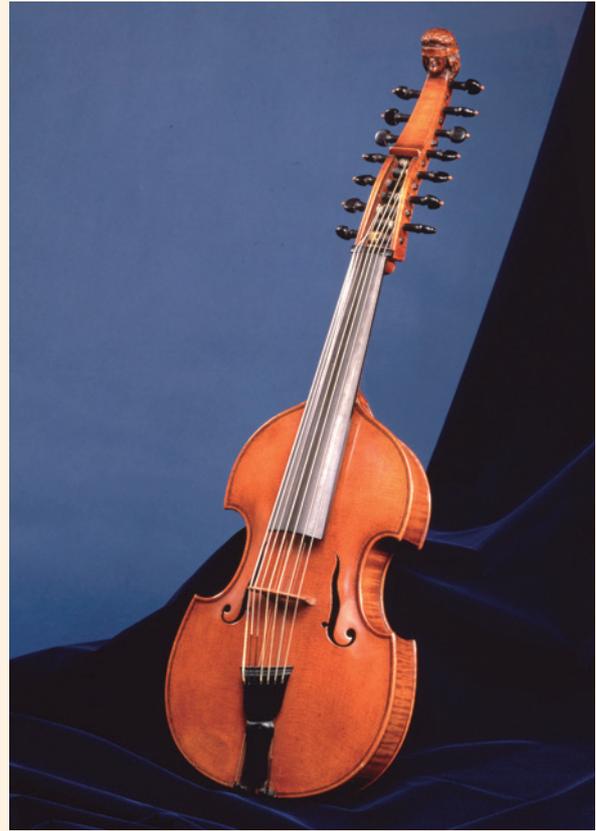
製作者・製作年不詳 ヨーロッパ 長さ81cm

16世紀前半から、ヨーロッパの弓奏弦楽器はヴィオラ・ダ・ガンバとも呼ばれるヴィオール属と、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロといったヴァイオリン属が主に使われていました。そのような中で、この両者の特徴を併せ持つ新しい楽器の考案がありました。その一つがヴィオラ・ダモーレです。この楽器は、構え方と指板上にフレットがない点ではヴァイオリン属に、胴の形や調弦の点ではヴィオール属に種別され、17世紀後半に姿を現し、18世紀にかけて普及しました。

この楽器は、7本の演奏弦の下に同数の金属の共鳴弦を持ち、この共鳴弦の長く伸びる余韻が、独特な音色を醸し出します。そのため新興の楽器でありながら人気を博し、ヴィヴァルディやシュターミツが協奏曲を作曲するなど、多くの作曲家がこの楽器のために作品を残しました。しかし19世紀になると次第に使われなくなり、20世紀初頭にはヒンデミット等の作曲家により一時復興しますが、現在ではあまり演奏されません。

特にこの楽器は、前述の共鳴弦の使用と「炎の剣」型の響孔、そして渦巻き部分に付けられた「目隠しをした天使」の彫刻に特徴があります。当時ヨーロッパは、17世紀に創設された東インド会社に代表される東方貿易の隆盛期で、急速に東洋文化への関心が高まりました。共鳴弦はインドの楽器に多用され、炎の剣はイスラムのシンボルとされています。これらの特徴から、この楽器には往時のオリエンタリズム（東方への憧憬）が反映されていると考えられています。

また、西洋で中世から愛の象徴とされる盲目の天使は、この楽器の名「愛のヴィオラ」にふさわしく、見るものの目を楽しませてくれます。ヴィオラ・ダモーレは、その部位に付けられ



たシンボルからも、異なる文化を融合した楽器であると言えるでしょう。なお、写真の楽器は本学楽器ミュージアムの記念すべき第1号の所蔵品（1953年）です。

No.58

## 音 | 楽 | の | 万 | 華 | 鏡 |

稲田隆之（本学音楽学教授）

### 戦争と「行進曲」

古来、音楽と戦争には密接な関係がある。そのひとつの例として、「行進曲」が挙げられるだろう。軍楽隊は、行進曲を奏することで兵士たちを鼓舞し、凱旋した暁には行進曲で勝利を祝う。太鼓やシンバルなど、打楽器による一定のリズムの反復を特徴とする。

モーツァルトやベートーヴェンの《トルコ行進曲》にみられるように、敵国の侵入が異国文化をもたらすこともあるが、J. シュトラウスⅠの《ラデツキー行進曲》やチャイコフスキーの大序曲《1812年》などは、勝利を祝った戦争の産物である。

そして戦争である以上、その背後には多くの死者がいる。死者を悼む行進曲が「葬送行進曲」である。ベートーヴェンの交響曲第7番の初演では、第2楽章の葬送行進曲がアンコール演奏された。この初演が、ナポレオン戦争の戦傷兵のための慈善演奏会だったことと無関係ではないだろう。

行進曲は「戦い」と「死者」を内包している。だとすれば、たとえば、ショパンの《幻想曲 へ短調》冒頭の葬送行進曲は誰の死を悼み、途中現れる行進曲の響き【譜例】には、誰との戦いがイメージされているのか。マーラーの交響曲第6番第1楽章の重苦しい



【譜例】ショパン《幻想曲 へ短調》より「行進曲」部分（127～129小節）

行進曲は、何と戦おうとしているのか。

なかでも、ショスタコーヴィチの交響曲第10番第4楽章の終わり近くで現れる行進曲は、異質である。実はこの交響曲、1953年のスターリンの死の数日後に完成され、作曲家自身を象徴するDSCH音型が作品後半で何度も現れる、という問題作なのである。第3楽章で、ワルツのリズムに乗せられたDSCH音型は、スターリンに踊らされた彼自身なのだろうか。終楽章の終わり近くで、ファゴットによる滑稽な旋律が行進曲を先導する。そのおちゃらけた行進曲は、スターリンがもたらした戦争そのものを茶化しているとしか思えない。世界の平和が危うい今こそ、こうした作品がしっかり演奏され、その意味が問われるべきである。



## 新女子学生寮 2024年初頭竣工！

エントランスにオートロックシステムを採用し、非接触ICタグ付キーをかざすだけで自動ドアを解除できます。また、有人管理で、建物周りには防犯カメラを設置し、安心感が高まります。

多くの寮や学生マンションはバスやトイレが共同なのに対し、本寮は各居室にバス・トイレ別で設置されています。室内にはエアコン・ベッド・照明・机・椅子・冷蔵庫が標準装備されており、入寮後すぐに快適な寮生活を送れます。また洗濯機も各室に設置しており、衛生面やプライバシーを気にする必要がありません。もちろんインターネットも利用できます。

本寮に関しましては、次号でもより詳細なお知らせをいたします。



巻頭の学長挨拶でも触れられているよう、築50数年が経過し老朽化が目立ってきた「むらさき寮」に代わる新女子学生寮が、2024年初頭に竣工します。本寮は個室方式によりプライベート空間をしっかりと確保しながらも、一人暮らしでは得られない広い共用スペースを完備しており、朝夕の食事付きです（銀座スエヒロ提供）。また、大学キャンパス内の練習室を利用することは勿論可能ですが、寮内にも冷暖房を完備した快適な練習室を用意しました。

キャンパスへのアクセスは、徒歩3分以内と抜群。学生寮に対し一般的に持つイメージを覆す高級感とスタイリッシュさで、あたかもマンションのような建物になります。セキュリティについては、

## 全日本レスリング選手権大会「天皇杯」セレモニーでファンファーレを演奏

本学は音楽を通じた社会貢献活動を活発に行なっていますが、昨年12月25日に東京・駒沢体育館で開催された「令和4年度天皇杯全日本レスリング選手権大会」のセレモニーにおいては、本学管打楽器専攻の学生たち30人が演奏し、心地よい吹奏楽の響きをお届けしました。

また各階級の決勝前には、勇ましいファンファーレを高らかに演奏し、パリ五輪代表の選考にもつながる重要な熱い戦いに華を添えました。

学生たちはこのような機会を通じ、演奏だけでなく付随する様々な力を身につけ、自分が培ってきた音楽の力を社会の中で活かしていく術を学んでいます。



クリスマス当日の開催にあわせ、L.アンダーソン作曲「クリスマス・フェスティバル」を演奏し、会場を盛り上げた。

大会最終試合、注目の女子62kg級決勝では、本学福井直昭学長が表彰式のプレゼンターを務めた。優勝した元木咲良選手（育英大・右）と準優勝の尾崎野乃香選手（慶大・中央）。



## Musashino Topics

### ▶ 令和4年度音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂)

2023年3月10日、皇居内にある音楽ホール桃華楽堂で、在京の5音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が開催されました。

本学からは、目黒遥菜さん（ピアノ独奏）が出演し、ショパン作曲「ピアノ・ソナタ 第3番 口短調 作品58 第4楽章」を披露させていただきました。

### ▶ 令和4年度クロイツァー賞受賞者

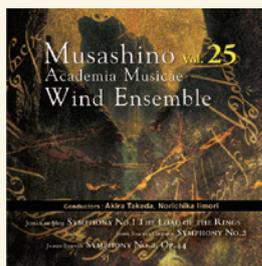
日本のピアノ音楽発展に寄与した故レオノード・クロイツァー教授の名を冠した「クロイツァー賞」。東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院修了生から、毎年特に優れた成績を修めた学生が選出されます。本学からは大学院研究科修士課程ヴィルトゥオーゾコース修了の吉田サハラさんが選ばれました。受賞者による演奏会は、2023年7月17日14:00 東京文化会館小ホールで開催されます。

### ▶ 本学名誉教授の称号授与

永年にわたる教育上、学術上の顕著なご功績により、令和5年4月1日付で澤田勝行氏（ピアノ）に、武蔵野音楽大学名誉教授の称号が授与されました。

### ▶ 武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルCD 最新盤の発売

本学ウィンドアンサンブルのCD Vol.25が、ブレーン株式会社から5月19日に発売されました。2022年度の定期演奏会のプログラムから、デ・メイ：交響曲 第1番<指輪物語>、チャンス：交響曲 第2番、バーンズ：交響曲 第2番が収録されています。（指揮＝武田 晃、飯森範親）お求めはお近くの販売店で、本学演奏部窓口でも販売しています。（税込2,530円）



# 希望を胸にそれぞれの旅立ちと新たな出会い

## 大学



「令和4年度 音楽学部、大学院修士課程、別科の卒業式・学位記授与式・修了式」が、3月23日、ベートーヴェンホールにて挙行されました。荘厳なオルガンの奏楽で開式が告げられ、学位記授与に移りました。はじめに音楽学部の各専攻の代表が舞台にあがり、総代の目黒遥菜さん（演奏学科ヴィルトゥオーゾコース・ピアノ）に福井直昭学長より卒業証書・学位記が授与されました。続いて大学院修了生に、長年の研鑽に対して敬意を表され、学長から一人ずつ学位記が渡されました。最後に別科修了生の代表に修了証書が授与されました。

福井学長は式辞で「今日、皆さんは大学生から、人から必要とされる社会人へと旅立ちます。武蔵野の建学の精神「<和>のこころ」の意味する、他者を尊重し、協調しながら自立して問題提起や解決できる社会人になってほしいと思います。母校となる武蔵野音楽大学で学んだことを礎に、未来社会を切り開く推進役として成長されることを心よりお祈りします」とはなむけの言葉を贈られました。

続いて、卒業生を代表して上野紗和さん（演奏学科声楽コース）による答辞、高木菜夏さん（演奏学科声楽コース）より記念品の贈呈が行われ、最後に曾田 響さん（演奏学科ヴィルトゥオーゾコース・ピアノ）の指揮で、「ほたるの光」を合唱して式典は幕を閉じました。

閉式後は、お世話になった先生へ感謝を述べる姿が随所でみられ、キャンパス内に設置されたフォトスポットの前で、友人同士や恩師、家族とともに笑顔で記念撮影をし、別れを惜しみながら思い出のキャンパスを後にしました。



また、3月21日から23日の3日間、「令和4年度卒業演奏会」がベートーヴェンホールで開催され、出演した37名が4年間の研鑽の成果を披露し、有終の美を飾りました。



4月1日には、「令和5年度 音楽学部・大学院・別科 入学式」が同ホールで開催され、真新しいスーツに身を包んだ新入生たちが集いました。

学長式辞では「武蔵野の学生として、“建学の精神”と“教育の方針”をしっかりと理解してください。芸術としての幅広い音楽の研鑽を積むと同時に、多様性が尊重される現代社会において、自分の生き方、個性がなんであるかをしっかりと考えてください。そして、生活をマネジメントし、信頼できるよき友達を作って大学生活を有意義に送ってください」と力強くエールを送られました。これに対して新入生を代表して、山崎詩歩さん（演奏学科器楽コース・ピアノ）が新入生代表宣誓で、大学生としての抱負と決意を述べました。

続く4月5日には、学生会主催の新入生歓迎会がベートーヴェンホールで開催されました。華やかなファンファーレで始まり、学友会紹介、クラブPRそして先輩たちの歓迎演奏会へと続き、新入生たちを温かく迎えました。その他、「公開クラブ活動」が各教室で行われ、新入生たちは楽しそうに参加し、これからの大学生活への期待を膨らませています。



## 附属高等学校

附属高等学校では、2月26日、バッハザールにて「三年生を送る会」を実施しました。感謝を伝える心がこもった演出によるイベントとなりました。引き続き開催された「ドリームコンサート2023」は、3年生にとって、生徒全員で取り組む最後の発表の場となりました。当日は杉島理一郎入間市長をはじめとする、約600名の来場があり、生徒たちの真摯な演奏に温かい拍手が送られました。

令和4年度卒業式は、3月1日、バッハザールにて挙行され、パイオルガンによる奏楽(伊東光介教諭作曲「語る大地から読む光」)で幕が開きました。コロナ禍において入学式も中止となるなどさまざまな制限下においても、ひたむきに音楽と向き合ってきた三年間の思いが、答辞(荻野朱星さん・ピアノ)、送辞(大竹 豊さん・2年声楽)にあふれていました。卒業生による「揚げば尊し」や、「ほたるの光」の合唱も感動を呼び、多くの保護者と先生方に見守られ、式は厳かに執り行われました。

4月2日、桜咲き誇る中、2023年度入学式がバッハザールにて挙行されました。期待と不安が入り混じった面持ちの新入生ではあ



りましたが、福井直昭校長から心温まる式辞で迎えられた後、新入生代表宣誓(ウルフ そらさん・1年ピアノ)も立派に行われ、式は粛々と進行されました。4日には始業式をはじめ、新入生と2・3年生が対面する対面式、2・3年生による新入生歓迎演奏会が行われ、これから始まる高校生活に対し、エールが送られました。



## 附属幼稚園

各幼稚園では、2月から3月にかけて年度末のイベントが開催されました。1年間の音楽活動のまとめとして「ひな祭り音楽会」や「表現発表桃の会」が開催され、園児たちは合唱やバイオリンを披露したり、リズムカルな音楽に合わせて伸び伸びと身体表現をするなど、大きな舞台上でこれまでの成果を発表しました。卒園の前に開催された「お別れ会」では、在園児たちの感謝の言葉やプレゼントを受け取り、笑顔で別れを惜しましました。修了式では、保護者の方や先生に見守られながら、一人一人が立派に修了証書を受け取りました。園児たちの気持ちが込められた「お別れの言葉」や「修了の歌」が力強く響き、新しい生活に向かう子どもたちの力を感じさせてくれました。

4月に入り「入園式」では、新入園児が、保護者の方と一緒に門をくぐりました。先生たちから温かい歓迎を受けて、これからの幼稚園生活がいよいよスタートします。



## 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。 学校法人 武蔵野音楽学園

### 同窓生

青木国子様	上田菜緒様	金子恭子様	佐野幸枝様	長瀬清正様	北條亮子様	山内奈保美様
明村健太郎様	打越孝裕様	亀崎光子様	嶋田晶子様	中谷 勉様	細堀とも子様	山口潤子様
荒木 渉様	遠藤和子様	香山重子様	鈴木浩子様	中野久賀子様	堀内 操様	山添信正様
家泉浩美様	大川滋子様	川口俊子様	巽 蔦枝様	永原美奈子様	本田希代子様	山田 一様
池田満江様	大島初美様	小池純子様	田中美恵様	中村俊輔様	松浦靖子様	山本千恵子様
石上由加理様	岡本佳子様	小泉敏恵様	田中路恵様	長柄弘道様	馬渡芳子様	吉澤美智子様
石川栄子様	小川眞理子様	後藤由里様	田中幸子様	西田明美様	水上由貴様	吉田厚子様
石川友美様	小野寺昌枝様	小林なな子様	田上秀子様	長谷川奈津子様	光田明子様	李 正堯様
石原多美様	小畑眞理子様	小松孝子様	田村允子様	服部純怜様	三部安紀子様	渡部五月様
泉 玲子様	貝嶋夕美子様	小森健兒様	戸田仰子様	早川治子様	宮崎 康様	渡邊雅子様
伊藤征夫様	加藤智子様	佐々木富美代様	豊岡ミチ子様	林 秀樹様	宮本こずえ様	
伊藤眞理絵様	金子朝子様	佐竹典子様	永井匠子様	林 裕美子様	森岡 翠様	
猪熊慶子様	金子道子様	佐野直子様	中嶋幸子様	平川志保様	森田恵理様	

### 在学生・同ご父母

飯泉祐美子様 箱山智美様

### 役員・教職員・一般・他

上原正子様	坂下裕子様	戸田史郎様	日高正枝様	福井紀子様	福井直祥様	渡邊規久雄様
岡 珠世様	館岡真澄様	戸部 豊様	平田亜矢様	福井直昭様	前川愼一郎様	
佐伯真弥子様	寺本まり子様	播 博様	平田小百合様	福井直敬様	宮木ゆかり様	

※ご芳名（五十音順）は、令和4年12月1日～令和5年2月28日までに寄附いただいた方々です。 (他に匿名を希望される方36名)  
それ以降の方は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。  
※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

## 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

名 称	内 容	氏 名
令和4年度和歌山県文化表彰	文化功労賞	宮澤敏夫（1966年大学卒業・コントラバス）
令和4年度木内音楽賞（秋田県）	受賞	菅原寿恵（1999年大学卒業・フルート）
楽器店大賞2022（主催：一般社団法人 全国楽器協会）	打楽器プレイヤー部門 大賞	嶋崎雄斗（2012年修士修了・マリンバ）
Basel Composition Competition 2023（スイス）	第2位	木村真人（本学講師 2005年大学卒業・作曲）
第3回スイス国際音楽コンクール（オンライン）	S1 ピアノ部門 第1位	吉原麻実（2021年修士修了・ピアノ）
クララ シューマン国際コンクール2022（オンライン）	ピアノ部門 Master B 第2位	吉原麻実（2021年修士修了・ピアノ）
第28回おきでんシュガーホール新人演奏会オーディション	優秀賞	宮野恵輔（大学2年・クラリネット）
リスト協会国際ピアノコンクール2022（イギリス）	第3位	増田珠里（大学2年・ピアノ）
第38回かながわ音楽コンクール	声楽部門 大学生の部 最優秀賞	上野紗和（大学4年・声楽）
第28回KOBEL国際音楽コンクール	木管楽器C部門 優秀賞、神戸市民文化振興財団賞	武久日向子（大学2年・オーボエ）
第7回K Piano連弾&2台ピアノコンクール	連弾部門 大学・一般の部 第3位（1位なし）	小早川妙子（1991年修士修了・ピアノ）
第7回K Piano連弾&2台ピアノコンクール	連弾部門 大学・一般の部 第3位（1位なし）	小介川淳子（1989年大学卒業・ピアノ）
第13回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 全国大会	自由曲コース大学A部門 銅賞	矢野月菜（大学2年・ピアノ）
第25回“万里の長城杯”国際音楽コンクール	管楽器部門 大学の部 第3位	梶原すみれ（大学4年・フルート）
第16回バーテン音楽コンクール	自由曲コース ピアノ部門 一般AIの部 第3位	桑谷 恩（2022年修士修了・ピアノ）
第6回Kフルートコンクール	動画審査部門 大学生・一般の部 第3位	戸山沙彩（大学1年・フルート）

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。掲載は順不同、敬称略、学年は受賞時のものです。

## 武蔵野音楽大学同窓会 全国総会のお知らせ

2023年度 武蔵野音楽大学同窓会 全国総会は、2023年8月5日（土）午後6時より「ホテル椿山荘東京」（東京 目白）にて開催されます。4年ぶりの開催となります。皆様のご参加をお待ちしています。

## 2023年6月～12月の演奏会

6月15日㊦ (18:30)	ニュー・ストリーム・コンサート48 ～ヴィルトウオーゾコース演奏会～ 出演＝中村友亮 (Perc.)、玉垣知穂 (Cl.)、菅家璃音 (M-Sop.)、杉田優希 (Euph.)	ブラームスホール (江古田) 無料 (全席自由・要事前予約)
6月16日㊦ (18:30)	ニュー・ストリーム・コンサート49 ～ヴィルトウオーゾコース演奏会～ 出演＝長嶋穂乃香 (M-Sop.)、宮野恵輔 (Cl.)、木内伶奈 (Pf.)、佐藤星龍 (Fg.)	ブラームスホール (江古田) 無料 (全席自由・要事前予約)
7月 8日㊤ (14:00)	ウィンドアンサンブル演奏会 (香川公演・東京公演) 指揮＝レイ・E. クレーマー	ハイスタッフホール (観音寺市民会館) 一般 ¥1,500 / 小中高生 ¥1,000 (全席自由)
7月12日㊦ (18:30)	曲目＝ティケリ：永遠の光、ジョージ：フル・サークル パーシケッティ：交響曲 第6番 Op.69 他	東京オペラシティ コンサートホール ¥1,500 (全席指定)
9月17日㊤ (16:00)	管弦楽団演奏会 (栃木公演・東京公演) 指揮＝北原幸男 ピアノ独奏＝本学学生オーディション合格者	宇都宮市文化会館 大ホール 一般 ¥1,500 / 学生 ¥1,000 (全席自由)
9月19日㊦ (18:30)	曲目＝ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 Op.37 マーラー：交響曲 第1番 二長調 (巨人)	東京芸術劇場 コンサートホール ¥1,500 (全席指定)
9月23日㊦・㊤ (14:00)	附属高等学校音楽科 第27回在校生によるコンサート ※お問い合わせ＝武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL：04-2932-3063	ブラームスホール (江古田) ¥1,000 (全席自由)
10月10日㊦ (18:30)	崔 文洙 ヴァイオリン公開講座 & ミニコンサート	ブラームスホール (江古田) ¥2,000 (全席自由)
10月12日㊦ (18:30)	ニュー・ストリーム・コンサート50 ～ヴィルトウオーゾコース演奏会～ 出演＝金谷知歩 (Pf.)、恒本優花 (Pf.)、木名瀬遥介 (C-Ten.)、國吉千聖 (Sax.)	ブラームスホール (江古田) 無料 (全席自由・要事前予約)
10月24日㊦ (18:30)	教員による室内楽の夕べ 出演＝山本正治 (Cl.)、岡崎耕治 (Fg.)、丸山勉 (Hrn.)、丸山由里子 (Vln.)、水野佐知香 (Vln.)、 深山尚久 (Vln.)、恵谷真紀子 (Vla.)、渡邊信一郎 (Vla.)、黄原亮司 (Vic.)、三宅進 (Vic.)、高山智仁 (Cb.) 曲目＝ドヴォルジャーク：弦楽四重奏曲第12番 へ長調 (アメリカ) Op. 96, B. 179 ベートーヴェン：七重奏曲 変ホ長調 Op. 20 他	ブラームスホール (江古田) ¥2,000 (全席自由)
11月 3日㊦・㊤ (14:00)	附属高等学校音楽科 創立50周年記念コンサート ※お問い合わせ＝武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL：04-2932-3063	ブラームスホール (江古田) 無料
11月16日㊦ (19:00)	ニュー・ストリーム・コンサート51 ～ヴィルトウオーゾコース演奏会～ 出演＝曾田美音 (Pf.)、三友優 (Pf.)、上田駆 (Bar.)、阿部和輝 (Fg.)、丸山真一郎 (Vln.)、加藤愛海 (Cl.)	トッパンホール ¥1,500 (全席自由)
11月24日㊦ (18:30)	管弦楽団演奏会 指揮＝飯森範規 曲目＝メンデルスゾーン：〈フィンガルの洞窟〉序曲 Op.26 リスト：交響詩〈レ・プレリュード〉S.97 R.シュトラウス：アルプス交響曲 Op.64	東京オペラシティ コンサートホール ¥1,500 (全席指定)
11月27日㊦ (18:30)	イリヤ・イーティン ピアノ・リサイタル	ベートーヴェンホール (江古田) ¥2,000 (全席自由)
12月 6日㊦ (18:30)	室内合唱団演奏会 指揮＝栗山文昭、片山みゆき ピアノ＝齋藤誠二、川瀬紗綾 ハープ＝箱山輝之介 曲目＝ブラームス：Nänie、三善寛：であい、グレゴリオ聖歌、信長貴富：〈赤い鳥小鳥〉より	ベートーヴェンホール (江古田) ¥1,000 (全席自由)
12月12日㊦ (18:30)	ウィンドアンサンブル演奏会 指揮＝レイ・E. クレーマー	東京芸術劇場 コンサートホール ¥1,500 (全席指定)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のために演奏会の開催が延期、中止または入場者の制限をさせていただく場合があります。  
ご来場前に本学ウェブサイトでの確認または、本学演奏部にお問い合わせください。※チケットは本学ウェブサイトより購入できます。  
●お問い合わせ 武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

## オープンキャンパス・学校説明会&体験レッスン

オープンキャンパス		
開催日	主な実施内容	会場
6月18日㊤ 7月16日㊤ 8月 6日㊤ 9月10日㊤ 11月26日㊤	ガイダンス (大学案内)、 附属高等学校説明会、 体験レッスン、学生によるコンサート、 キャンパスツアー、体験授業、 質問コーナー、保護者説明会	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス

学校説明会&体験レッスン		
開催日	開催地	会場
6月 4日㊤	神奈川県横浜市	ミュージックアベニュー横浜
6月 4日㊤	静岡県静岡市	すみやグッディ SBS 通り店
6月10日㊤	広島県広島市	広島県民文化センター
6月11日㊤	長野県松本市	キッセイ文化ホール
6月25日㊤	北海道札幌市	ガイダンス会場：六花亭札幌本店きたこぼしホール レッスン会場：ヤマハ札幌センター
6月25日㊤	福岡県福岡市	アクロス福岡 イベントホール
7月 2日㊤	富山県富山市	富山県民共生センター「サンフォルテ」
7月 2日㊤	高知県高知市	ライラホール (オーパスクラブ内)
7月 9日㊤	宮城県仙台市	カワイ仙台
7月 9日㊤	茨城県水戸市	ザ・ヒロサワ・シティ会館 小ホール

※事前申し込みが必要です。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。  
【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター TEL.03-3992-2500  
E-mail: nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

## 2023年度 大学・高校受験講習会

講習会名	日程	申込期間
夏期受験講習会Ⅰ期	8月7日㊦～ 8月9日㊦	6月10日㊤～ 7月18日㊦
夏期受験講習会Ⅱ期	8月25日㊦～ 8月27日㊦	6月10日㊤～ 8月13日㊦
秋期受験講習会	9月17日㊦・ 18日㊦・㊤	7月10日㊦～ 8月28日㊦

【会場】武蔵野音楽大学 江古田キャンパス  
【要項請求】本学ウェブサイト内の「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、本学広報室 (TEL.03-3992-1125) へお電話にてご請求ください。  
【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター  
TEL.03-3992-2500  
E-mail: nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

## 2023年度 免許法認定講習

講習会名	日程	申込期間
免許法認定講習	7月23日㊦～ 8月 3日㊦	7月 3日㊦消印～ 7月14日㊦必着

【会場】武蔵野音楽大学 江古田キャンパス  
※詳細は要項でご確認ください。  
要項は、本学ウェブサイト内に掲載します。  
【お問合せ】武蔵野音楽大学 学務部学務課 TEL.03-3992-1128

## Contents Vol.143 2023

1	ごあいさつ	学長 福井直昭
2	巻頭	ラフマニノフ生誕150年に寄せて—— 真嶋雄大
6	卒業生インタビュー	夢は世界の舞台、あきらめない心と挑戦の日々 土屋優子
9	楽器ミュージアムレター	ヴァイオラ・ダモーレ
	音楽の万華鏡	戦争と「行進曲」 稲田隆之
10	Musashino News	新女子学生寮 2024年初頭竣工！ 全日本レスリング選手権大会「天皇杯」セレモニーで ファンファーレを演奏 希望を胸にそれぞれの旅立ちと新たな出会い
13	Campus Information	武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等） 武蔵野音楽大学同窓会 全国総会のお知らせ 2023年6月～12月の演奏会 オープンキャンパス・学校説明会&体験レッスン 2023年度 大学・高校受験講習会 2023年度 免許法認定講習

## 表紙の写真

ドローンにより空撮した“リストプラザ”。キャンパスの中心に配置した地下の広場により、地下1階まで十分に光を取り入れることが可能となり、豊かなキャンパスの環境を創出している。広場を囲む建物は、教室、図書館、レッスン室・練習室など機能ごとに独立しており、個々の特徴的な要素は広場によって調和が図られ、キャンパス全体がひとつの街のような景観となっている。



学校法人 **武蔵野音楽学園**

江古田キャンパス | 〒176-8521 東京都練馬区羽沢 1丁目 13-1  
TEL. 03-3992-1121 (代表)

人間キャンパス | 〒358-8521 埼玉県入間市中神 728  
TEL. 04-2932-2111 (代表)

パルナソス多摩 | 〒206-0033 東京都多摩市落合 5-7-1  
TEL. 042-389-0711 (代表)

武蔵野音楽大学大学院  
博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・人間・多摩

武蔵野音楽大学ウェブサイト <https://www.musashino-music.ac.jp/>

